

○事業所名	多機能型事業所 来歩		
○保護者評価実施期間	令和6年9月16日		令和6年9月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33名	(回答者数) 22名
○従業者評価実施期間	令和6年9月16日		令和6年9月21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	令和6年10月25日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童の発達状況に応じた個別療育・集団活動プログラムを提供していること。	<ul style="list-style-type: none"> 日々変化する児童の様子を全体で振り返り、目的や目標、個別課題へ反映させている。 集団活動の機会を定期的に設け、児童の様子や目的に沿った活動プログラムの立案から実行までの体制作りを行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動内容のマンネリ化防止やスキルアップ、次回の活動に繋げられるよう、振り返りや情報収集を行う。
2	保護者や関係機関との連携を大切にし、共通した支援を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> 家族の困り感やニーズに応じて、関係機関(学校、相談支援事業所、他事業所等)と情報共有を行っている。また実際に学校や他事業所へ行き、事業所外での児童の様子や支援方法を確認し、統一を図っている。 	<ul style="list-style-type: none"> まだまだ学校との連携や情報共有が不十分であるため、職員間で確認事項を共有し、送迎時や個別支援会議等にて積極的に発信していけるよう取り組んでいく。
3	複数の専門職員が会社に在籍しており、研修や支援等、他事業所職員との連携が取れていること。	<ul style="list-style-type: none"> 児童発達支援事業所職員との合同研修を定期的実施し、事業所での課題解決やスキルアップを図っている。 PT/OT/ST等の専門職員と連携し、児童の課題や支援方法に反映させている。 	<ul style="list-style-type: none"> 他事業所職員としっかりコミュニケーションを取り、事業所職員が実施できる支援(マッサージや体操等)を学ぶと共に、日々変化する児童の様子を共有していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員の体制状況により活動が制限されることがある。	<ul style="list-style-type: none"> 現場職員の不足 経験年数や児童との信頼関係等、スキルの差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 人材確保に向けた取り組み(就職フェアへの参加等) 他部署間との連携、応援体制の構築 職員のスキルアップにつながる研修の実施
2	身体をしっかりと動かして発散する環境	<ul style="list-style-type: none"> 成長に伴い教室が手狭に感じる。 下校時間の関係から利用時間も短い。 多機能型事業所であるため、ホールを使用できる時間が限られている。 	<ul style="list-style-type: none"> 長期休暇等、身体を動かせる活動を増やす。 戸外活動の検討(安全に過ごせる場所や人員の調整) ホール使用の再調整(合同レク等で使用頻度を増やす)
3	集中できる環境、クールダウンできる環境の確保	<ul style="list-style-type: none"> ワンフロアであるため個別スペースの確保が難しい。 学年により来所時間も異なるため平日は個別療育の時間の統一が難しい。 静震室が教室外であるため、職員の体制状況によっては移動や見守りが手薄になってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の様子や教室の状況に合わせて机やパーテーションの位置を変更していく。 緊急的に教室移動が必要な場合には他部署職員に応援を依頼できる協力体制を構築していく。